2022年 春の展覧会

旅する福沢一郎 vol.1

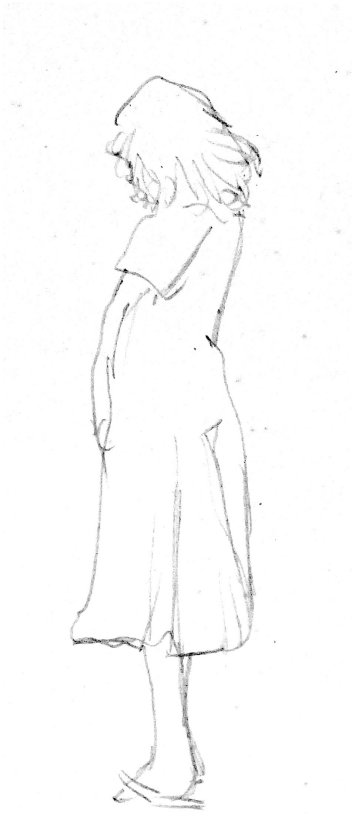
写真と素描でたどる『アマゾンからメキシコへ』

2022年5月12日（木）— 6月4日（土）

※木・金・土曜日開館 13:00 — 17:00

福沢一郎（1898-1992）は旅する画家でした。若い頃から国内外のさまざまな土地へでかけ、地元の人々の生活や祭礼、史跡なども興味深く観察し、制作の糧にしていました。とはいっても、旅先の風景や人物などをそのまま描くのではなく、それぞれの土地で得たさまざまな印象と、貪欲に吸収した知識、それらをもとに積み重ねた思考によって、もっと大きなテーマ、たとえば人間のいのちの力強さや社会のダイナミズムなどへと昇華させていきました。特に1953-54年の中南米の旅は、彼の制作に強い影響を与え、大きな転換点となったのです。

このとき制作の助けとなったのが写真でした。これらの中には、ただ現地のようすを記録するだけでなく、写真としての表現にも挑んでいるようなものが多くあり、画家の興味を知るうえでとても貴重なものです。今回の展示はそれらの写真と、スケッチなどの小品をもとに、彼の中南米の旅のようすに迫る試みです。



福沢一郎　中南米の旅　関連年表

1952年

5月14日　文化自由委員会国際親善本部主催の国際芸術祭典「20世紀の傑作」に参加するため、平林たい子らとともに渡仏日本を出発、南回りの空路でパリへ。

6月　同祭典の開始日に間に合わなかった日本人画家の作品展示（23日-7月5日　クリトン・クラブ（文化自由委員会国際親善本部））に立ち会う。

6月　第26回ヴェネツィア・ビエンナーレ（14日〜10月19日、ビエンナーレ中央館、ヴェネツィア）に《樹海》（1948）を出品。福沢自身が観ているかは不明。

7月　スペインに旅行（28日発）。ブルゴス近くの村で犬にかまれる

9月上旬　パリに戻る。

12月　個展（1〜13日　Gallery Benedite, Paris）開催。

1953年

1月　パリを出て、マルセイユから船でブラジルへ。

2月6日　サンパウロ着。この街に約8ヶ月滞在。個展（18日〜3月3日　サンパウロ現代美術館）開催。

11月中旬　リオ・デ・ジャネイロから船で20日ほどかけてベレンに到着。
ベレン滞在中にパラー州アカラ郡（現トメ・アス郡）のピメンタ（コショウ）栽培の盛んな入植地へ。

12月　ベレン市内のクラブでリオデジャネイロ在住の「カミナガイ君」とサンパウロの「半田君」との3人展開催（12-20日）。

12月16日　ベレンを出発しアマゾンを遡る。約一週間でサンタレン着。ホテル・オリアンタールに2泊する。

12月24日　サンタレン飛行場から水陸両用飛行機でマナウスへ。

12月31日　マナウスから飛行機でベレンへ。

1954年

1月4日　ベレンを出発。空路で英国領トリニタッド島ポート・オブ・スペインへ。2泊してパナマへ。

1月9日　メキシコ到着。ホテル・オンタリオに滞在。滞在中に個展開催。

1〜2月、タスコへ。

4月19日　飛行機でユカタン半島のメリダへ。ウシュマールやチェチェン・イッツァなどマヤの遺跡を見物。22日には飛行機でメキシコシティへ。

4〜5月　メキシコ近郊のサボテンの多い村を取材。メキシコシティの医者荻田氏が同行してくれる。

5月2日　帰国の途へ。メキシコシティからティファナへ飛行機で向かい、そこからバスでロサンゼルスへ。ロスから日本船で横浜へ。

5月19日　横浜港着。

5月　第1回現代日本美術展（19日〜6月5日東京都美術館）に《アマゾンの女たち》を出品。

11月　著書『アマゾンからメキシコへ』（読売新聞社）刊行。
この年から1958年頃まで、中南米の旅や、メキシコ美術に関する原稿依頼が相次ぐ。

1955年

2月　「19人の作家　戦後の絵画・彫刻」（5日〜3月13日　国立近代美術館）に《樹海》（1948）《厚岸の霧》（1950）《群像》（1952）《傀儡》（1954）《メキシコの市場》（1955）を出品。

3月　読売新聞社主催第7回日本アンデパンダン展（1〜17日　東京都美術館）に《臆病窓》《西班牙ラプソデー》を出品。

5月　第3回日本国際美術展（20日〜6月12日　東京都美術館）に《顔》《Xのファンタジア》を出品

1956年

3月　読売新聞社主催第8回日本アンデパンダン展（1〜17日　東京都美術館）に《闘牛》《いれずみの男》を出品

5月　第2回現代日本美術展（22日〜6月8日　東京都美術館）に《狩猟》《窓》を出品

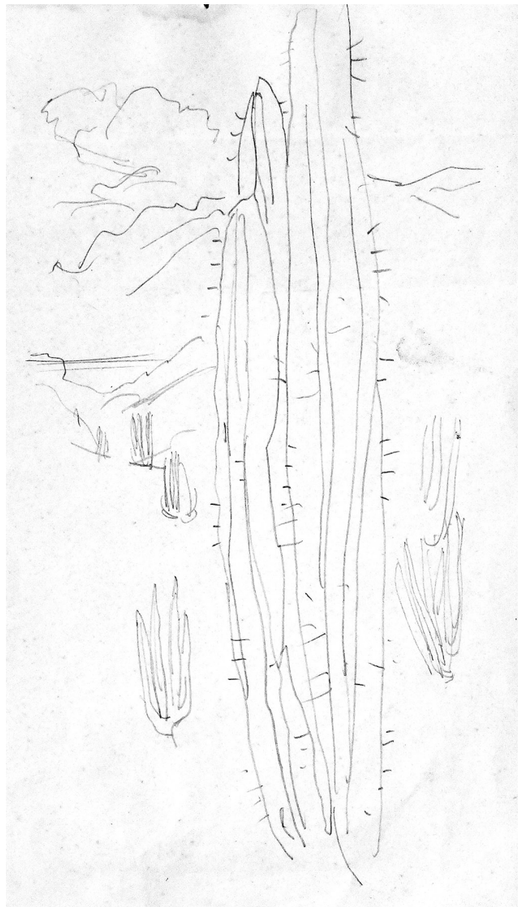
10月　油絵展（2〜7日　渋谷東横）開催。

11月　世界・今日の美術展（13〜25日　日本橋高島屋）に《踊り》を出品。

12月25日　読売新聞ベストスリー美術部門に挙げられる。

1957年

5月　第4回日本国際美術展（23日〜6月16日　東京都美術館）に《埋葬》を出品、日本部の最高賞を受ける



メキシコでのスケッチ　1954年

出品作品・資料リスト

１．ブラジル

①《コパカバーナ》1953年　油彩・キャンバス　27.2×33.1cm　富岡市立美術博物館・福沢一郎記念美術館
②《サンパウロの夜景》1953年　油彩・キャンバス　32.9×41.5cm　富岡市立美術博物館・福沢一郎記念美術館
③写真「コパカバーナ(リオ)海水浴場」PP0217
④写真「ブラジル サンパウロ 公園にて」PP0226
⑤写真「サンパウロ 日本領事館の窓から」PP0222
⑥写真「リオ、近代美術館」　PP0116
⑦《アマゾンの花》1953年　油彩・キャンバス　41.2×33.0cm

２．アマゾン

⑨《アマゾン》1954年頃 水彩・紙 43.4×30.6cm
⑨《インディオの女》1954年 水彩・紙 43.0×32.3cm
⑩写真「北ブラジル ベレン 難民」　PP0227
⑪写真「アマゾンの猿」　PP0444
⑫写真　ピラルクの標本　PP0408
⑬写真「アカラ移住地 アマゾン 右手に見え るのが胡椒の畑」　PP0144

３．メキシコの遺跡と美術

⑭写真　オアハカ大聖堂　PP0074
⑮写真「モンテアルバンの廃墟」　PP0104
⑯写真「メリダ ユーカタン」(物売りの老婆) PP0127
⑱写真　ミトラ遺跡　PP0189
⑱写真「メキシコ大学図書館 モザイク装飾 建築家オ・ゴルマン、左は大学企画者アーンマン前大統領石像」 PP0181
⑲写真　ディエゴ・リベラの壁画《人類:宇宙の制御者》ベジャス・アルテス宮殿　PP0098
⑳写真「国立師範学校中庭のステージ」(ホセ・クレメンテ・オロスコ作の壁画)　PP0179
㉑写真　詳細不明 住宅前のオブジェ　PP0115

４．メキシコ 市井の人々

㉒《メキシコ(母と子)》1960年　油彩・キャンバス　33.5×24.5cm　富岡市立美術博物館・福沢一郎記念美術館
㉓《メキシコの母子(I)》1954年　水彩・紙 26.2×33.0cm
㉔《メキシコの母子(II)》1954年　インク・紙 41.4×33.0cm
㉕《メキシコの男》1954年　水彩・紙 38.7×28.5cm
㉖写真「子供 貧民窟 メキシコ市」　PP0229
㉗写真「タスコの女」　PP0063
㉘写真「閉める… メキシコ郊外」　PP0218
㉙写真「メキシコ郊外 サボテンと子供」PP0132
㉚写真「物売る女 オハカ」　PP0185
㉛写真　詳細不明　竈と人影　PP0221
㉜写真「トルティアをつくる女」　PP0449

5.福沢一郎サボテン・コレクション

㉝写真「メキシコ イダルゴ州のサボテン」PP0117
㉞写真「メキシコ郊外 さぼてんの村」PP0129
㉟写真「龍舌蘭」　PP0133
㊱写真「さぼてん」　PP0134
㊲写真「龍舌蘭」 PP0187
㊳写真「メキシコ郊外テペペンにて 1954年2月21日」　PP0410

6.中南米の旅、その後

㊴写真　ベレンでの展覧会場前にて 1953年 12月　PP0367
㊵写真　ベレンでの展覧会場風景 1953年12 月 PP0088
㊶写真　ベレンでの展覧会場風景 1953年12 月 PP0088
㊷書籍『アマゾンからメキシコへ』